

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 24 年 8 月 5 日			
所属学部・研究科	総合科学部／研究科 3年次 (留学開始時点)			
留学先大学	大連理工大学 (国名：中国)			
所属学部・学科等名	国際文化交流学院			
在籍身分	中国語研修生			
留学期間	平成 2011 年 9 月 13 日～平成 2012 年 7 月 4 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類： F			
	ビザ申請先： 大阪			
	取得方法、提出書類： パスポート、健康診断証明書、証明写真、ビザ代金書類を用意し大阪の中国領事館に直接出向いた			
	手続きに要した日数： 1週間			
その他必要な事前手続き	健康診断証明書			
出国年月日	平成 2011 年 8 月 26 日			
経路	関西国際空港発 大連周水子空港着			
現地での出迎え	有 大学関係者			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	到着後留学生専用事務所に行き、今後のオリエンテーション、クラス分けテストの日程を教えてもらえる。またこれらの日程は毎年おおよそ同じ月日に行われるが年により少し異なる。オリエンテーションでは、校内での規則、今後のおおまかな行事などの説明が行われる。			
帰国年月日	平成 2012 年 7 月 17 日			
経路	大連周水子空港発 韓国インチョン空港経由 関西国際空港着			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	70 万	円	
	内訳	渡航費		円
		保険料		円
		教科書代(学費)		円
		宿舍費		円
		食費		円
		その他 (費)		円
(費)		円		
(費)		円		
3. 授業について				

2011年 前 学期	9月13日 ~ 1月5日
2012年 後 学期	3月5日 ~ 7月4日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	学期の初めに行われるクラス分けテストの結果によって初級1 初級2 中級1 中級2 高級班に分けられ、そのクラスのレベルに応じて違った内容の授業が行われる。クラスにより多少の変動はあるが基本的には全ての授業は中国語で行われ中国語で中国語を勉強する、またクラスメイトは全て留学生である。クラス分けのテストにより高級班より上のレベルと判断された者は中国人本科生と共に授業を受ける事が可能である。
単位互換希望の有無	有 ※有の場合、所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	日本人ばかりと交流しない事、積極的に中国人、または他の留学生と交流を持つ事が望ましい。
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	大学の寮
住居の広さ	約 m ² 同居人の有無 無
住居に附属する設備	電気 ガス 水道 給湯 シャワー 風呂 水洗便所 インターネット バランダ
住居費	1ヶ月当たり 9000円(現地通貨) 約1万1700円
住居を決定した方法	留学先大学の紹介
留学先での住居全般に関するアドバイス	大学は全ての留学生に寮を手配してくれる、寮は講義棟や食堂に近く便利であるが門限がある。そのため自ら手続きを行い部屋を借り学外に住む学生も居る、手続きも日本ほど煩雑では無く部屋代も寮費とほとんど変わらない。友達の中には中国家庭にホームステイさせてもらっている者もいて、話を聞くと語学を学ぶのに非常に良い環境だと羨んだこともある。一年留学するのであれば半年は寮に、それから半年は環境を変えて違う場所に住んでみるのも良い経験になるだろう。
(2) 医療について	
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	掛けた
掛けた場合	日本 広島大学で紹介される東京海上日動の海外旅行保険
掛け金は	年間 12万 円
留学前後での予防接種の必要の有無	無
有の場合、その種類、回数、費用、受けた医療機関名	

日常的な健康について不安が	なかった	
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	<p>日本に比べ現地の中国人向け病院の医療事情は良くない、医者、事務員全ての対応において適当な印象を受ける、もし中国の病院で診察を受けるようであればきっちりと医者に症状を説明しないと適切に診てもらえないこともある。衛生的に問題のある病院も見受けられる、またどの病院でも患者が非常に多く何時間も待たされるのは当たり前である。大きな事故や病気を起こして手術が必要になったときは担当医にお金を包むのは当たり前の様である、よって大きな病気、事故を起こさないよう日本に居る時よりも注意しなければならないだろう。</p> <p>大連には外国人向けの病院 (医者は日本人) が存在しており、その対応は素晴らしい、決して大きな病院では無く、診療所のようなものであるが、何かあればまずそこで診てもらうことをお勧めする、保険の適用も問題なく出来る。</p>	
留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	<p>中国では屋台や出店が出ていることが多く値段も安く味もいいので食す機会も多い。ただそれらの食べ物は特に夏不衛生な事があり食べる時には注意が必要である。</p> <p>交通状態も乱雑であり信号を守らない車もあるし、歩行者も信号を守らない、道路の横断には特に注意が必要である。</p>	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 2014 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 2014 年 3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	新卒で卒業するため 希望の就職先の採用試験に間に合わない	
現在の状況および今後の予定・進路等	大学院に進む予定は無く、来年就職活動を行う。	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	卒業単位はできるだけ残さずして留学すべきである	
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
<p>留学は自分を成長させてくれる非常に良い機会である、一人で勉強するだけではなく、友達と討論したり、遊びに出かけたり、旅行に行ったり、自分から積極的に行動し本物の中国を味わってもらいたい。私自身留学していて、現地の人や他の留学生と交流していく中で、自国や他国について価値観や、物事に対する姿勢が大きく変わった。日本に居れば味わう事のできない人の多様性を直に体感できる事も非常に有益である、是非とも先入観や固定概念に囚われず、物事を受け入れそして考え、思う事を行動に移して欲しい。</p>		

学習の概要について

私は 2011 年 8 月から 2011 年 7 月まで大連理工大学に留学していた。理工大学では留学生は全て中国語のレベルに応じて変わるクラスに振り分けられ、1 学期間そこで学習する、新しい学期が始まる前に自分から申し出て飛び級テストに参加することも可能である。私の場合前期は中級 1 班に属していた、後期の授業が始まる前に飛び級テストを受け合格し、本来中級 2 班のところを高級班に配属される事になった。また授業開始から一週間は始業期間とされていてその期間中は自身のレベルが授業のレベルと合わないと感じた場合、教授に変更願いを申し出、それが認められた場合はクラス変更も可能である、ただしクラスを上げたい場合はテストに合格する必要がある。

授業体系について留学生は基本的には留学生だけのクラスで中国語を学ぶ事になる、例外として中国語レベルが著しく高いと認められた場合中国人と混じって専門の授業を受ける事ができる、もちろん自ら進んで聴講生として中国人本科生の授業に参加することは可能である。留学生の授業科目としては全てのクラスで教程中国語（語彙、文法、例文作成など基本部分）、スピーキング、リスニング、読解、ライティングの授業が行われる、また中級班、高級班では中国文化の授業も行われる、さらに選択科目として中国経済、HSK 対策（要費用）、古典中国語、太極拳などの授業も用意されている。教程中国語の授業では 語彙、文法、そしてそれぞれの用法、長文読解、例文作成などの中国語の基礎となる部分を学習する一番重要な科目である。この科目の授業時間が他のどの科目よりも多い、またその関係で担当の教授がクラス主任の教授となり、その学期間学生の面倒を見てくれる。中国での授業では、発言機会が多く、普段の授業で自分の考えの発表を求められる事が少なくない、私の場合あまり自分の意見や考えを口に出すのは得意ではなく困る事もあった、そこで日常から積極的に自分の意見を表明する事は世界では当たり前であると考え、またそれを実行していこうと決心した。全ての授業において教授の教え方の質は高く、クラスも他大学と比べると少人数で学習環境として非常に素晴らしいと感じた、なにより理工大学で勉強する日本人の数は非常に少ない、必然的に外国語を使わないといけない環境になるので言語を学習するという点でこの上ない環境であった。以前留学に行った北京語言大学ではクラスの半分以上が日本人であったが、理工大学では基本的に日本人の数はクラスの 4 分の 1 以下である、後期のクラスでは 18 人中日本人は 2 人であった。

HUSA 制度の感想について、他の大学の留学制度についてくわしく知らない為是非について述べることはできないが、留学生活で障害を感じる事は無く、手続きもそれほど煩雑とは感じなかった、そのため満足はしている。強いて挙げるならば HUSA 制度で留学の出来る学生はとても少ない、学生時代に海外を知る事はとても重要な事だと思う、HUSA 制度に合格できなかったため留学自体を諦めた友人も居る、人数の問題とは限らないかもしれないが、もう少し門戸を広げても良いのではないかとも思う。

生活の概要について

大連での生活は基本的に大学の授業を軸に回っていた、何も考えずとも、作文やレポートなどの宿題に追われ毎日が慌しく過ぎていく。宿題はほぼ毎日出される、前期の初めの方は授業についていく為、クラスメイトとの差を縮めるため平日の夜はもちろん週末も宿題や自主勉強に時間を費やした。もちろん留學生活で勉強ばかりしていても、留學の大義をつかむ事はできないだろう。言語を学ぶだけでなく、現地の人、大学生との交流、外国人留學生との交流の中で、今までメディアの中でしか知らなかった彼らの本当の考え方を知れたり、その国の実情が見られたり、日本人としてのアイデンティティに気付いたり、そういうものが本当の留學の価値だと思う。それを意識した上でできるだけ中国人の学生と友達になり深い関係を築いて欲しい、僕の場合は留學生と交流する事が多く、親友と呼べるような中国の友達に正直に言うことができなかつた、これは今回の留學唯一の後悔である。またこれから留學で外国に行こうとする人たちには現地の組織に参加してみることを強くおすすめする。例えば僕はサッカーが好きで、大連の社会人サッカーチームに所属していた、そのチームには外国人は僕一人、もちろん日本人も僕一人であったが、彼らは僕を外国人だからと特別視するわけではなく一チームメイトとして一緒に食事に連れて行ってもらった、誕生日会や新年会に参加する中で中国人の考え方や生活態度について触れる事が出来た。

留學生活中は授業の他に学校主体のイベントも多数行われる。定期的に開催される学校のイベントには積極的に参加するべきであろう。理工大学では毎学期市の大会にまで繋がる中国語スピーチコンテストが開催される、それに加え後期には汉语橋と呼ばれる全国規模の中国語大会がある、これらの機会もおおいに利用して中国語を勉強して欲しい。その他文化祭や体育祭、クリスマス会もあり、文化を学んだり、友達を作る為の絶好の機会であるのでぜひ参加するべきである。

僕は休みがあるごとに、旅行に行っていた。旅行はその国の文化や風土を学ぶ上で非常に重要であると思う、特に中国に行くなら絶対に他の地域に行くべきである、中国では地域が違えば言葉と生活習慣が全く違う。東西南北それぞれ言語文化に大きな違いがある。近い様に見えて北京人も大連人の方言を理解する事が難しい、南に行けばなおさらで上海人や広州人の言葉は全く違う言語であるし、文化も大いに異なっている。このように旅行に行つてそれぞれの地域の特色を直に体感する事は中国学習に対して大きなアドバンテージになる事は間違いない。